

## 県産針葉樹の熱処理について

- 熱処理をすることで中温乾燥材よりも寸法安定性が向上しました。
- 無塗装であっても黒褐色に変色しました。

### 概要

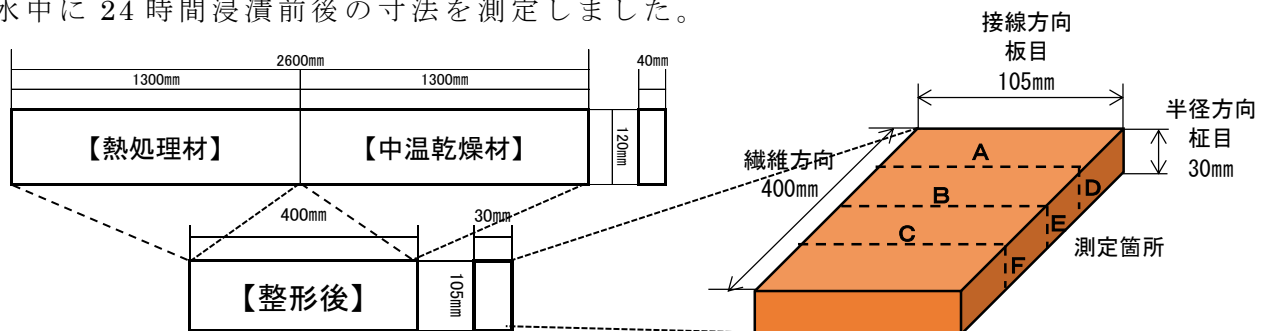
木材を屋外で使用する場合は、劣化（腐る、燃える、狂う）を抑制するため、木材保存剤の使用や化学加工処理された木製品が流通しており主にスギが使用されています。一方、薬剤等を使用せずに、劣化を抑制する方法として「熱処理※」があります。そこで、県産4樹種を使用し熱処理材の寸法安定性試験等を実施しました。

※無酸素状態で蒸気と共に加熱（最高 220℃）する処理

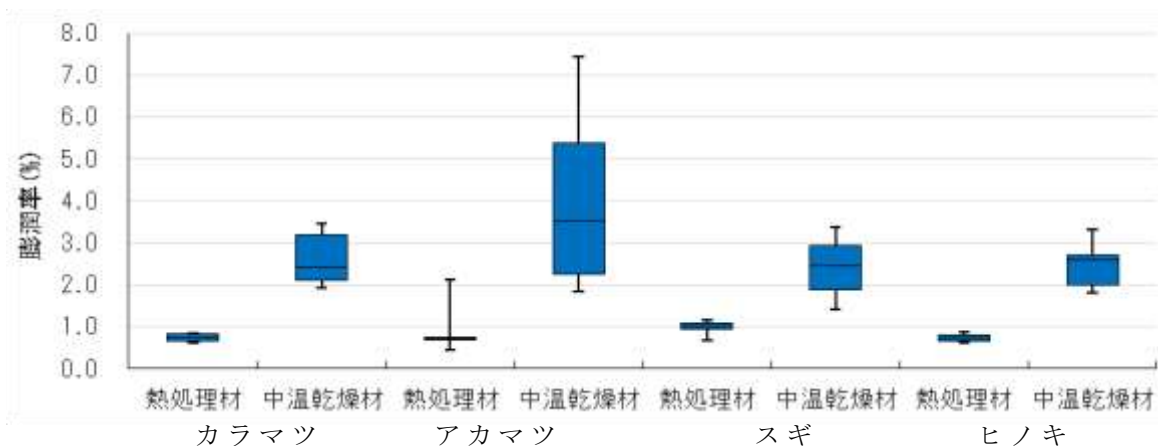


### 内容

供試材は、下図のとおりカラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキの複数の丸太から板目材を製材し、1枚の板目材からそれぞれ熱処理と中温乾燥（温度 80℃）を行い、モルダーにて整形後、水中に24時間浸漬前後の寸法を測定しました。



得られた測定値から膨潤率（吸水後、供試材の寸法が大きくなったか断面積で比較）を下図のグラフに示します。4樹種ともに中温乾燥材よりも熱処理材の方が低く、バラツキも小さくなり、寸法安定性が向上していることを確認しました。また、熱処理により黒褐色に変色しました。



詳しくは以下のアドレスの 84 頁を参照

<https://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/gyomu/documents/r2gyoumu-min.pdf>

担当者 木材部 奥原祐司